

研究課題に関する情報公開

研究課題名：「親の育児ストレス調査―「親であること」を支える指針づくり」

1. 研究の対象

本研究では以下の方を研究の対象とします。

- 1) 1995年～1996年に千葉県、宮城県、岩手県、岡山県で乳幼児健診を受けた小児の母親のうち、日本版 Parenting Stress Index (PSI) 調査に参加された方
- 2) 2016年7月～2021年3月に岩手県、東京都、千葉県、愛知県、兵庫県、高知県で乳幼児健診を受けた小児または同地域の幼稚園・保育園に通園する小児の父親及び母親で、日本版 Parenting Stress Index (PSI) 調査に参加された方

2. 研究目的・方法

本研究の目的は、1. 乳幼児の親の育児ストレスの特徴と要因を明らかにする、2. 育児ストレスと要因について、20年前の結果との相違を検討する、3. 育児ストレス調査と親の感じ方の質的分析から親であることを支える指針を検討することとしています。

1990年代に千葉大学看護学部及び岩手県立大学看護学部の研究グループにおいて育児ストレスの国際比較研究 (Krulik T et. al, 1999) に取り組み、101項目の原版 Parenting Stress Index (PSI) から78項目の日本版 PSI を開発しました。今回、20年後の最新データとして、子どもの年齢を就学前まで拡大して各年齢の母親、父親の育児ストレスの標準値を示すことを目指して、上記の2)の対象の方に、文書を用いて研究の趣旨、方法、倫理的配慮を説明して無記名自記式アンケート調査を行い、また、インタビュー調査による質的分析から、育児に対する親の感じ方の多様性を捉えて、「親であること」そのものを包括的に支えるための基礎資料を提示する計画です。

さらに、本研究では1995～1996年に千葉、宮城、岩手、岡山で乳幼児健診を中心に無記名自記式アンケートにより実施した日本版 PSI 調査で収集したデータを二次利用させていただきます。具体的には上記1)の方が対象となります。

調査期間は2016年7月～2021年3月を予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

日本版 PSI による育児ストレス調査票、親の年齢や体調、生活、家族構成、ソーシャルサポート等に関する内容です。

4. 外部への試料・情報の提供

調査によって得られたデータへは、研究者以外がアクセスできない状態で、研究代表者が保管・管理します。上記2)を対象とする調査における協力施設には、必要に応じて調査結果を郵送または直接記録媒体でお届けする場合がありますが、その場合

は、対象となる地域で得られた分析結果を集団として扱いますので個人が特定される情報を伝えることはありません。

5. 研究組織

岩手県立大学大学院看護学研究科・教授・白畑範子

甲南女子大学・教授・丸光恵

高知大学・准教授・松岡真里

愛知医科大学医学部看護学科 山本弘江

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問、研究への利用を拒否する場合の連絡先は以下をご参照ください。

研究代表者 名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻
奈良間 美保 narama@met.nagoya-u.ac.jp
〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20